

関係各位

株式会社スリー・ディー・マトリックス

” PuraStat Webinar - Is it the champion of Haemostasis?” 開催のお知らせ

2021年3月25-27日にバーチャルに開催される欧州消化器内視鏡学会大会 (ESGE Days: European Society of Gastrointestinal Endoscopy) に先立つ形で、3月10日、弊社主催の「PuraStat」に特化したウェビナー “PuraStat Webinar - Is it the champion of Haemostasis?” を開催いたしました。

依然続く、コロナ禍の影響もありウェビナーの形式を取りましたが、全世界から941名の参加登録（昨年のUEGW直前ウェビナーの登録者数から55%増）があり、うち多数にご参加いただきました。結果として、505名の方から「PuraStat」についてさらに深く理解したいというお申し出をいただきました。このような環境下でありながらも、これだけ多くの方に興味を示していただけたことは、欧州において「PuraStat」が既に内視鏡手技において欠くことのできないポジションを確立しつつある現状を反映しているとポジティブに受け止めております。

今回は、「PuraStat」がこのコロナ禍の環境下で果たしうる役割について、モデレーターにAlessandro Repici教授 (Humanitas University & Research Hospital, Milan, Italy)、Pradeep Bhandari教授 (Queen Alexandra Hospital, Portsmouth, UK) のご両名を迎え、欧州・中東を代表するKOLの方々にそれぞれのご経験に基づいたお話を共有いただきました。各先生からの発表要旨は下記の通りです。

➤ Helmut Neumann 教授 (University Medical Center Mainz, Mainz, Germany)

講演テーマ: 「The Champion of Haemostasis」

「PuraStat」が内視鏡下におけるESD、EMR等の切除術においていかに優れた止血材であるかを語ってくださいました。大腸でのEMR術中に繰り返し滲出性の出血を起こす患者は相対的に高い後出血の発生が認められるため、「PuraStat」を用いることによって後出血を伴いやすい焼灼止血ををなるべく行わずにリスクを下げることや、止血クリップでは止血しにくいような場所においては「PuraStat」をクリップの上から用いることでより止血の完全性を高められること等について、ご経験に基づいて詳しくお話しいただきました。

➤ Sharmila Subramaniam 先生 (Queen Alexandra Hospital, Portsmouth, UK)

➤ Asma Alkandari 先生 (Al Jahra / Taiba Hospital, Kuwait)

講演テーマ: 「Novel Uses of PuraStat」

それぞれの病院においてこれまで「PuraStat」を用いていなかった領域において、どのような新しい取り組みをされているかをご共有いただきました。Alkandari先生からは主にPOEM (Peroral Endoscopic Myotomy :

経口内視鏡的筋層切開術。食道下部が狭窄する食道アラカシアを内視鏡による切除術で治療する方法)において「PuraStat」を止血目的で使用されたところ、出血のコントロールはもちろんのこと、後出血の頻度が減ったり、患者さんの術後の苦痛が減ったりしたという100件以上の使用経験に基づいた先生のご知見を語っていただきました。また、Subramaniam先生からは大腸におけるESDにおいてPuraStatを用いることで焼灼による止血を50%削減することができたというBhandari教授のRCTの結果を再度ご共有いただきました。加えて、GAVE (Gastric Antral Vascular Ectasia: 胃前庭部毛細血管拡張症) に対して粘膜下層を切除した面に止血とそれに伴う後出血の予防のために「PuraStat」を適用した事例や、RP (Radiation Proctopathy: 放射線性大腸・直腸炎) の出血コントロールに「PuraStat」を適用した事例等をご紹介いただきました。

➤ Emmanuel Coron 教授 (CHU Nantes, Nantes, France)

講演テーマ: 「Ampullary Lesions: How to optimize your resection」

Ampullectomy (十二指腸乳頭部切除術) に伴う止血のコントロールにおける「PuraStat」の価値についてご共有いただきました。Ampullectomyは合併症を起こしやすい術式であり、ある調査では手術件数のうち7%の後出血、5%の穿孔のリスクが伴うとの報告もあるそうです。この難しい場所の止血という課題に対して、熱や物理的な圧を用いないため合併症のリスクが低く、かつ乳頭部を塞がないことで胆汁や膵液の流れを妨げない特徴を持つ「PuraStat」を用いるようになったご経験を共有いただきました。今後も引き続き「PuraStat」を用いることで科学的なデータを収集していきたいとの目標を掲げていただきました。

➤ Eduardo Albeniz 先生 (Complejo Hospitalario de Navarra, Pamplona, Spain)

講演テーマ: 「Delayed Bleeding after EMR: The Role of Current Haemostats」

従前はクリップによる止血が主流だったEMRにおける「PuraStat」の止血材としての有用性について語っていただきました。先生は過去に止血クリップによってEMR後の後出血リスクが減少するというRCTを実施され、後出血リスクが相対的に高い患者に適切にクリップを使用することで後出血率と総医療費を減少させられるという結論を出され、これが広く世界で受け入れられてきました。ただし、現場の臨床では適切にクリップで閉じ切れる切除面ばかりではなく、実に3分の1ほどのケースでは完全には創傷面を閉じ切ることができないとのことで、特にそれらのケースに「PuraStat」を用いることによって後出血率を有意に下げられる可能性を期待されています。今後、先生が主導でこの研究を進めて行きたいので、多数の先生方にもご協力いただきたいというコメントをいただきました。

弊社といたしましては、今回のウェビナーで主に触れた内視鏡下の切除術を中心に販促を推進していくとともに、今後、自発性出血への止血、放射線性直腸炎への処置へも領域を拡大しようと考えております。現在の弊社の試算では欧州での市場規模はそれぞれ、内視鏡下の切除術への止血: 約130億円、自発性出血への止血: 約120億円、放射線性直腸炎への処置: 約100億円程度存在していると想定しております。

また、特に今回のウェビナーを通じて「PuraStat」に対して強いご興味を持たれた内視鏡医の方々に対しては、積極的に早期に試用機会を提供していくことで、ユーザー基盤の大幅な拡大を目指して活動を進めてまいります。

以上

本件に関するお問い合わせ先
株式会社スリー・ディー・マトリックス
管理部

Tel : 03 - 3511 - 3440 (代表)

(参考: ウェビナーの招待状)

 3-D MATRIX
MEDICAL TECHNOLOGY

Partnered with
FUJIFILM



Join our Symposium

PuraStat®:

Is it the Champion of Haemostasis?

Wednesday 10th March 2021 | 18:30 - 20:00 CET

Moderators



Prof. Alessandro Repici
*Humanitas University &
Research Hospital, Milan*



Prof. Pradeep Bhandari
*Queen Alexandra Hospital,
Portsmouth*

Agenda



The Champion of Haemostasis

Prof. Helmut Neumann | University Medical Center Mainz, Mainz



Novel Uses of PuraStat

*Dr. Sharmila Subramaniam | Queen Alexandra Hospital, Portsmouth
Dr. Asma Alkandari | Al Jahra / Taiba Hospital, Kuwait*



Ampullary Lesions : How to Optimise Your Resection

Prof. Emmanuel Coron | CHU Nantes



Delayed Bleeding After EMR : The Role of Current Haemostats

Dr. Eduardo Albéniz | Complejo Hospitalario de Navarra, Pamplona

**CLICK HERE TO
REGISTER YOUR INTEREST**

OR SCAN ME



www.3dmatrix.com



3dm-events@puramatrix.com

Connect with us:

